Vol.24
静岡文化情報
街かど

MACHI-KADO

(財)静岡市文化振興財団

あの日あの時
路地裏散策

興津

特集
興津の景色に憧れて

Information
(財)静岡市文化振興財団インフォメーション
ストリートフェスティバル・イン・シズオカ

あの日あの時

興津 OKITSU

▲ 昭和初期／現在の国道1号沿いにあった　ライオン

目の前に海を望み、背後は山に守られた、気候温暖な土地、興津。

ここは、その土地柄の良さから保養地として栄え、大正から昭和の初めには、東京近辺からたくさんの保養客がやってきました。保養客は、一夏、一冬を興津で過ごすため、海辺の家には貸し別荘が多く、貸家という札を貼った家があったのを覚えています。

そして、興津には、そうした保養客の先進的な気風や、園芸試験場に勤務する帝国大出身の研究者の都会風インテリ集団からの影響も受け、早くからモダンな気風が街に入り、またそれを好む雰囲気がありました。

私の家も、大正13年から「ライオン」というカフェを営業していましたが、店には、着物に、フリルのついたエプロン姿の女給さんたちがいて、コーヒーをはじめ、手作りアイスクリーム、クリームソーダ、ミルクセーキ、カレーライス、ハヤシライスなど、当時としてはずいぶんハイカラなものを出していました。

興津を訪れた保養客の中には、皇族の方々や政界の要人もたくさんおられ、西園寺公望公、井上馨侯など、そうそうたる政治家が別荘を構えていました。中でも西園寺公は雲の上の人でしたが、その人柄から町民たちの親しみと尊敬を集め、公が亡くなられた時には、興津町民のほとんどが坐漁荘から興津駅までの沿道に並んで公の柩をお見送りしたものでした。

そういえば、私の小学校時代に父親が西園寺公の運転手をしている同級生がいました。私は、彼の家に遊びに行き、二人でこっそり西園寺公の車に忍び込んだことがあります。公の車は、流線型の濃いブルーで、タイヤに白い線が入ったアメリカ車でした。中に入ると、運転席に話が聞こえないようにするためか、護身のためか、運転席の後ろをガラスで仕切る小さなクランクハンドルがついていました。

当時の興津は、庵原郡16か町村の中心地で、会議や体育大会、徴兵検査など、すべて興津で行っていました。特に徴兵検査の帰りは、男子が一人前になったことを喜んで、興津中の飲食店、旅館はどこも人でいっぱいの大騒ぎ、店の子供がお腹が空いて泣いてもご飯をもらえないような忙しさでした。

自然に恵まれた興津では、子供たちは、山でも川でも海でも、よく遊びました。特に海では、夏は越中ふんどし一つになって、海岸で遊び、危険な土用波の時期はさけて、波の高い日には、洗濯板につかまって波のりをしたものでした。高学年になると板なしの素手で波に乗り、砂浜まで乗り上げる腕のいい者がいて、興津の言葉で「見体（けんたい）がいい」と年少の子供たちのあこがれでした。

また、秋口、海岸には、トンボの大群がやってくることがあり、シオカラトンボ、赤トンボ、ヤンマなどトンボだらけの海岸へタモを持って出かけ、一日中トンボを追いかけたりしました。

いろいろな思い出がありますが、興津は、自然にも歴史にも文化にも恵まれた豊かな街だったとつくづく思います。

～ライオン食堂 望月弘美さん～

▲ 昭和15年11月／西園寺公の逝去を惜しむ町民・坐漁荘前

▲ 昭和40年前半／海から見た清見寺

▲ 昭和20年代後半／興津駅

▲ 昭和32年10月／陛下 水口屋お成りの日

▲ 昭和初期／興津駅

昭和30年半ば／清見潟
（中央より少し左に建っているのは現坐漁荘駐車場横の皇太子殿下御海水浴跡の碑）▶

興津路地裏散策

江戸時代、東海道五十三次
17番目の宿場だった興津。
かつての東海道（現国道1号）を
興津にむかえば、徐々に山が
せまり、空が広がっていく。
そして、清見寺町の丸形ポストを
みつけると、「ああ興津に来たなぁ」
と実感する。
このポストを境に、ゆったりと
やわらかい興津の空気が
流れはじめるようだ。

1 ポストの話

興津には、現在では珍しい丸形ポストが10個残っており、八木間（やぎま）町にあるものは、東海地区に現存する最も古いポストの一つで、明治45年に設置されたものだという。

さらに、興津は赤いポスト発祥の地だとか…。

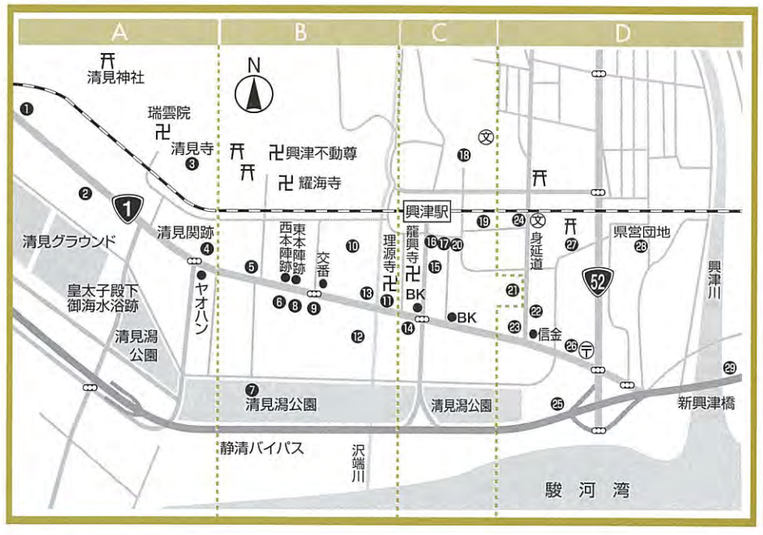
明治45年、井上馨侯の喜寿の祝賀会が、興津の別荘で開かれた。皇太子殿下をはじめ、千人ほどの来訪者があり、別荘前には仮設プラットホームを置き、急行を止める豪勢さだった。そして、祝賀会の記念絵はがきを投函するためのポストが目立たないので、赤い布を巻いたところ、大変役に立った。これが、赤いポストの始まりだという。

興津が赤いポスト発祥の地という正式な記録はない。しかし、最古のポストの設置と侯の祝賀会が、同じく明治45年というのが何やら意味深長だ。

3 清見寺

境内を鉄道に分断されている珍しいお寺「清見寺」。このお寺は、広辞苑（第五版1998年発行）にも「静岡県清水市興津にある臨済宗妙心寺派の寺…」とはっきり記載されている。広辞苑に名前の載るお寺は、決して多くないが、清見寺の歴史の深さは、その価値を充分に物語っている。

清見寺は、天武天皇の時代、東北の蝦夷に備えて、清見関と呼ばれる関所をこの地に設け、その鎮護として仏堂を建立したことに始まる。そして、歴史上名高い人物の多くがこのお寺に関わっていく。南北朝時代、清見寺を深く敬った足利尊氏公が「日本十刹」の第七位に推し、豊臣秀吉公はここに本営を置いて北条氏を討った。秀吉公は、その後清見寺を訪れた際、呼び寄せた千利休が遅れてきたことに腹を立て、利休が持参した茶勺を折ってしまった。



鐘楼（左）と潮音閣▶

「なみだ」と名づけられたこの茶杓は今もお寺伝わっている。また、幼時、今川氏の人質であった徳川家康公が教育を受けた「手習の間」や家康公が接木したといわれる「臥龍梅」を見ることもできる。

近代になると、明治天皇や皇太子であった大正天皇など皇族の方々もおいでになり、清見寺の歴史に華を添えているが、もう一つ忘れてならないのは、清見寺が異文化の窓口であったことだろう。鎖国の行われていた江戸時代、朝鮮通信使や琉球使節が訪れ、海外の貴人を接待する宿を務めた。現在も寺内に朝鮮通信使の扁額が残り、寺裏の山には江戸に赴く途中で病死した琉球具志頭（ぐしちゃん）王子の墓が海に向かい、数年おきに琉球舞の奉納を受けるという。

清見寺・潮音閣の二階からは、今でも海が見渡せる。しかし、昭和37年に埠頭ができるまでは、お寺のすぐ前までが清見潟と呼ばれる海だった。かつてここを訪れた時の権力者や文人、異国の旅人たちはどんな思いで美しく雄大な海を眺めたことだろう。

清見寺を散策し、海を眺めながら、その長い歴史に思いを馳せるのも趣深い。仏殿の脇に並ぶ五百羅漢や謡曲「三井寺」で有名な鐘楼など見所も豊富だ。

◀『五百羅漢』

A

2 坐漁荘

興津駅から西へ向かって国道1号を歩くと、清見寺の少し先に見えてくるのが坐漁荘。元老西園寺公望公が晩年を過ごした別荘である。といっても実物は愛知県の明治村に移設されており、現在の建物は復元されたもの。平成16年4月に一般公開されたばかりの「新しい施設」である。

真新しい扉を開けると、「坐漁荘観光ボランティア」の名札を付けた男性が出迎えてくれた。中では同じ名札を付けた別の男性が来館者にあれこれと説明をしている。そう、ここではボランティアスタッフが施設ガイドをしているのだ。

代表の浅野健次郎さんによれば、現在ボランティアスタッフは16名。交代で坐漁荘に詰め、来館者への解説を行っているという。

「坐漁荘の公開から5か月、建物の説明は全員ができるようになりました。これからは西園寺公とその政治姿勢についても勉強して、皆さんにお話ができるようにしたいですね」と浅野さん。そのための情報収集にも余念がなく、定期的にボランティアスタッフで自主勉強会も開いているのだとか。

「大変でしょうね」と聞いてみたら、「楽しみでやっていますから」と返事が返ってきた。仕事ではなくボランティアなのだから、自分が楽しむことが大切なのだそうだ。

7月末には入場者数が一万人を突破、現在も順調に入場者数は増えている。興津の新名所となった坐漁荘の活況の原因は、ボランティアスタッフにもありそうだ。

坐漁荘の解説をする浅野さん▶

西園寺公望　1849（嘉永2）～1940（昭和15）年

藤原氏の流れをくむ九清華家の一つ徳大寺家の次男として誕生。西園寺家の養子となり、家督を相続した。

幼少時は、皇太子殿下（のちの明治天皇）の遊び相手として仕え、維新後は10代の若さで、山陰道鎮撫総督、越後府知事などを歴任したが、間もなく官を辞し、1871年仏留学した。

留学中、自由民権思想を学び、帰国後、1881年明治法律学校（のちの明治大学）を設立。中江兆民らと「東洋自由新聞」を創刊するが、勅命を受けて新聞社社長を辞し、政界入りする。憲法調査のため渡欧、各国公使・伊藤内閣の文相・立憲政交会総裁を歴任。

1906年以降、桂太郎と交互に2度内閣を組織し、「桂園時代」を作る。1919年パリ・ベルサイユ講和会議の首席全権として活躍。最後の元老として政界に重んじられた。政治の一線を離れ、坐漁荘へ居を移した後も、訪れる政界の要人は後をたたず、「興津詣で」という言葉を生んだ。1940年坐漁荘にて死去、国葬が行われた。

名門公家に生まれ、華々しい経歴をたどった西園寺公だが、仏留学で学んだ自由思想と国際的視野が、彼にリベラルなバランス感覚を与えた。軍閥支配に抵抗、時代が一方向に流されていく時、それにはどめをかけられる稀有な政治家であり、和漢洋の学問に長けた文化人でもあった。

BOOK

小説　坐漁の人

静岡市出身の小説家諸田玲子氏が清水を舞台に由比正雪から次郎長夫人・お蝶、大兵政五郎、そして、西園寺公望公を描いた短編小説集。

軍国主義へと傾いていく時代、国の行く末を憂いる晩年の西園寺公と公の暗殺計画をたくらむ国家主義の少年五十嵐軍太の姿を描いた短編が巻末を飾る。

歴史に基づいたストーリーとともに公の坐漁荘での生活や当時の興津の風景も描かれ興味深い。坐漁荘見学や興津散策をより深いものにしてくれる一冊。

4 路地裏の路地裏①

興津には路地が多い。海が埋め立てられる前は、漁をしている家も多く、海水浴もできたので、家から直接海に行けるよう路地がたくさんできたのだという。

この路地がとても良い。家々の間をぬう迷路にような路地に入ると、その陰りにほっとし、いろいろなものに出会う。家のかたわらに植えられた花や生活のにおい、気さくなお年寄りやのら猫、時に朽ちた手押しポンプを発見したりする。国道1号を挟んで、ヤオハンの反対側の一角を歩いていると、「隣海地蔵堂」なるお堂に行き当たった。かつて、ここには隣（臨）海寺というお寺があり、このお堂も「百年はここに建っている」とか…。お地蔵さまだけに、子供を海の事故から守っているのだともいわれている。

興津 MUSEUM

小さな博物館

港を中心に、街全体を生きた博物館にしようと活動している「みなとまるごと博物館SHIMIZUの会」では、その活動の一つとして「小さな博物館づくり」を行っている。

「小さな博物館」とは、清水の歴史にちなんだ生活用具や古い写真などを店舗の一角に展示し、街の歴史や魅力を訪れる人に紹介している個人の博物館。

館長は店主というこの気さくな博物館が、興津に8館あり、それぞれに街の魅力を伝えている。

5 レトロクラシック音楽館

茶楽㈲山梨商店の中にある博物館。

置かれているのは、昭和30年頃のステレオとクラシックのSP盤。古き良きモダンな興津を感じさせる品々だ。

SP盤は、モーツァルト、ベートーベン、ブラームスなどの名曲を戦前の名指揮者、名オーケストラの演奏で録音した超レア盤。「6MB8」真空管アンプと四段変速プレーヤーのついた当時最高のステレオからは、CDでは聴けない温かく、深い音色が流れる。

お茶を飲みながら、静かに耳をかたむけたいところだが、残念ながら、平成17年3月までは、店舗改修のためお休みだそうだ。

春の訪れを待って、美しい音色を聴きにでかけよう。

興津 MUSEUM

6 水口屋ギャラリー（フェルケール博物館別館）

『一碧楼水口屋』は、江戸時代には興津宿の脇本陣、明治以降は別荘旅館として約400年もの歴史を歩んできた由緒ある宿屋。しかし、宿屋は昭和60年に廃業、現在は、ギャラリーとして水口屋に代々受け継がれてきた資料を紹介している。数々の資料から、興津の時代の移り変わりや、宿屋の歴史を垣間見ることができる。

「明治の元老西園寺公望公が常宿としていたことで一時代を築いた水口屋も、近代日本の激動の時代、その時々の変化に合わせた宿屋としてのスタイルを確立しながら、隆盛を保ってきたんですよ」と話すのはフェルケール博物館副館長西野和豊さん。

その言葉の意味する資料として、『「興津海水浴趣意」版権登録之證』は興味深い。

眼前に海を見渡すことのできる風光明媚な土地柄であった興津。明治以降、従来までの“宿場町興津”から“避暑地興津”へと全国にアピールしようと「興津海水浴趣意」を作成。これは興津の海水浴の効能をうたったもので、今で言う、温泉の効能書きと言うべきか。効能付き海水浴場と景色の良さをウリとして、水口屋自らが働きかけ、興津への宿泊客を獲得しようとしていたことを伺い知ることができる。

皇族、政治家や文人と、そうそうたる著名人たちがこの宿屋を訪れた華やかな時代が過ぎ去り、その長い歴史に幕を降ろした現在も、当時と変わらずゆったりとした時間が流れている。ほんの昔、この場所で、政治や文学が生まれていたのかと思いを馳せながら鑑賞するのもまた味わい深いかもしれない。

BOOK

東海道の宿 水口屋ものがたりJAPANESE INN

1949年、興津を訪れた占領軍の軍属、オリヴァー・スタットラー氏が、この地の美しさと歴史、そして「水口屋」に魅せられて著した「JAPANESE INN」。米人にとっての日本入門書といわれ、中でも水口屋については「夢のような静かな宿屋…この国の古く美しい礼儀で私を包んでくれる場所」と記している。

興津の歴史も記され、興味深いが、残念ながら絶版。図書館で閲覧を。

7 静岡市立清水興津公民館・図書館

この春誕生した公民館・図書館。すでに地域の文化活動の拠点となっている。

公民館には、会議室のほか、市民サービスコーナー、多目的ホールがあり、最上階の展望室からは美しい興津の海が見渡せる。

図書館は、本が見やすいよう低めの書架を設え、興津鯛を模したステンドグラスが美しい「おはなしのへや」では、職員が子供たちのためにお話の会を開いている。

1階ロビーでは、ボランティアによる喫茶コーナーも開かれているので気軽に立ち寄ってみると良い。小さな博物館などが載った「興津マップ」もここでもらえる。

▲ 展望室

興津 SWEETS

「あんこ」のふるさと興津

興津は、「あんこ」のふるさとだという。

明治33年頃、興津承元寺町出身の北川勇作氏が大阪に出て、あんこを作るための磨漉機や煮炊釜、豆皮分離機などを発明し、日持ちのしない「生あん」の生産量を大幅にのばすことを可能にした。そして、同じ承元寺町出身の内藤幾太郎氏を一番弟子とし、製あん業の基礎を築いた。現在、興津承元寺には、二人を顕彰した製あん発祥の碑が建っており、全国の製あん業者には、興津出身者が多いとか…。

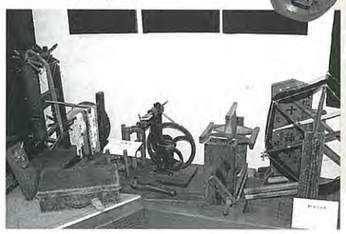
そんな歴史があるためか、興津には甘くておいしいお菓子がたくさんある。あんこを使った和菓子はもちろん、サブレやケーキなどの洋菓子まで逸品ぞろい。「興津Sweets」の食べ歩きも楽しめそうだ。

9 糸屋博物館

堀江糸店内にある博物館。堀江糸店は、江戸時代は文化・文政の頃から糸や綿を商っていた。向いが本陣という立地に恵まれ、かなり商売繁盛したそうだ。

由比、蒲原、富士川町へ漁師の網糸や着物のセル糸をさばき、昭和10年頃には、アメリカから輸入した廃品の絹の靴下をほどいて、加工した機糸を売ったという商家で、その頃のなごりか母屋、蔵、中庭が残る。

糸屋の看板、糸巻きカード、大福帖などの商い道具のほか、結納道具や身延講ののぼり旗など昭和20年代まで使われた道具が展示され、その中には、館長堀江君平さん自作の能面もあり、中々の出来栄えだ。



興津 MUSEUM

10 興津の歴史写真館

大正から昭和にかけての興津の歴史を写真で知ることのできる博物館。

「後世に興津の歴史を伝えたい」という思いから山田写真館の山田昭次さんが写真館に残る写真だけでなく、一般の方が持っている写真も集めて展示している。

清見潟や街道の家並み、東海道を走る蒸気機関車など、なつかしい風景はもちろん、水口屋にご宿泊された昭和天皇・皇后両陛下のご様子や興津駅のホームに腰掛ける西園寺公望公の姿など貴重な写真も目を惹く。

写真を持って、小学校へ郷土史の講義にもでかける山田さんは「過去の写真に写っている人たちのファッションや顔つきが今と違うのも時代を反映した見所だ」と話す。

12 大和 鯵の押し寿司

国道1号沿いの路地を入り、少し奥まったところに店を構える旅館「大和」は鯵の押し寿司で有名。

地元駿河湾で捕れた真鯵と、胡麻、生姜が香る寿司飯は絶妙な味わい。大正2年の創業で、大正時代から寿司を作り、その味を引き継ぎつつ、改良を重ねているそうだ。

持ち帰りももちろんできるが、座敷にあがり、吸い物やこれも評判の厚焼き玉子、胡麻豆腐、季節のデザートなどとセットで食べることもできる。

座敷から見える海が良い。座敷によっては、瓦屋根越しに海が見え、なんともゆったりとして、生活の中に海があったかつての興津を思わせる。

落ち着いた座敷で食事。昭和の保養客気分を味わい、外に出ると店先に小さな蟹がちょこちょこと動いていた。

興津 SWEETS

8 宮様まんぢう【潮屋】

一口サイズの上品な酒饅頭。甘さ控えめで、風味がきつすぎず、まろやかなのは明治30年創業からの酒種の製法に由来するという。

宮様まんぢうとは？大正天皇が幼少のころ、清見寺にお泊りになった際に宮様のおやつに献上したというもの。その後も様々な皇族の方々が訪れ、幼少の宮様方のおやつとして親しまれた故に「宮様まんぢう」と呼ばれるようになった。なるほど、白くて小さい上品なお味のお饅頭は高貴な宮様のお口によく似合う。

3代目ご主人は平成5年に亡くなられ、今は奥様が一人、子ども達と一緒に店を切り盛りされている。店を引き継いでしばらくはお菓子と伝統との必死の格闘が続いたそうだが、現在、見事に宮様まんぢうを継承している。

11 興津のたい焼

国道1号沿い、鯛の看板とのれんが目印のたい焼屋さん。

ここのたい焼を食べた人は皆「昔食べた懐かしい味」「甘さを抑えた小豆の味がする」など、それぞれに温かい味わいを口にする。

北海道十勝産の小豆にこだわり、人工的なものを一切使わずに作るあんこ、気温によって小麦粉・薄力粉の配合を変え、ねばりを調節した皮。でも、それ以上に43年間たい焼を作りつづけた微妙なカン、教えて教えられない長年のカンがおいしいたい焼を作るらしい。

たい焼売場の奥には、土間にガッチリした木造の柱や階段、白熱灯が見える。うなぎの寝床のような間取りも懐かしい興津の家を少しだけ拝見させてもらった。

▲ 縦に長い間取りが興津の家の特徴

13 麺の博物館

創業明治29年の大澤製麺所では、現在も昔ながらの天日干しで素麺を作っている。

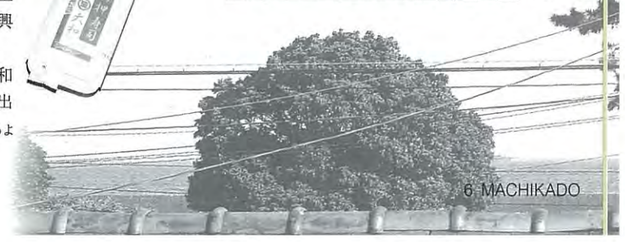
原料を吟味し、防腐剤や油を用いず、太陽の光をいっぱい浴びた素麺にはコシがあり、小麦粉本来の味がすると評判だ。

ただし、お天気に左右されるため、大量生産ができず、予約販売のみ。

包装も創業以来の包装紙に手で一つずつ包むという、まさに自然と人の力で出来上がった素麺だ。

さて、この博物館の展示は、4月から10月の晴れた日に行われるこの天日干し。夏の日差しに照らされ、中庭に幾重にも干された白い素麺には、何ともいえない風情がある。

春すぎて夏きにけらし白妙の
衣ほすてふ天の香久山



14 米屋のおやじ博物館

興津 MUSEUM

明治29年創業のお米屋さんの一角に、「米屋のおやじ博物館」はある。お米を計量する一斗枡・千歯こきなど、お米に関するもの、昔懐かしいものを展示している。

「懐かしいと言ってもわりと最近まで使っていたんですよ。」と話すのは館長の高山一郎さん。昭和40年代までは興津にも田んぼが結構あったそうで、近所の方が持ってきてくれた展示品もある。

歴史の教科書で見たことある!けど、実際に見たことはない、そんなお米に関する道具類。これを見れば歴史の勉強にもなるし、お米のありがたみもわかる、かもしれない。

15 らいおん食堂

「興津あの日あの時」を語ってくれた望月弘美さんのお店。

大正7年に建てられた仕舞屋風の店に白いのれん、古めかしさの中にどこか粋を感じる。

らいおん食堂のオムライスは街の人によく奨められ、「風邪をひくと食べさせてもらえた」と思い出を話してくれる人もいた。

薄く焼かれた卵に包まれたしっかりした味のチキンライス。時が止まったような店内で、古き興津に思いを馳せながら召し上がってはいかが。

16 名物屋

興津 SWEETS

駅前の「名物屋」は、お茶にこだわったお菓子を作っており、水羊羹にもお饅頭にもマドレーヌにも抹茶味が用意されているそうだ。

茶饅頭の横に並んでいるのは、大きさが特徴の酒饅頭。6センチほどの白いお饅頭は、食事がわりにもなる。ふわっとした皮に甘さを押さえたあんこ、さっぱりした味が男性にも人気だとか。

食欲の秋には、生クリームやお茶あんの大福、かぼちゃあんのお饅頭が店に並ぶので、お楽しみに…。

17 松栄堂

興津 SWEETS

興津にちなんだオリジナルのお菓子を作っている「松栄堂」。

宗像(むなかた)神社にちなんだ焼き菓子の「宗像太鼓」、興津の名所の名前が記された「興津サブレ」、東日本で最初に鮎釣りを解禁する興津川にちなんだ「鮎サブレ」、「鮎もなか」…。

興津の名所にこだわるのは「よそにないもの、独自のものを作りたい」という思いから。宗像太鼓の餡は黒胡麻と梅の二種類、鮎サブレは、胡麻をたっぷり使って和風に仕上げるなど、手をかけ、工夫したお菓子に名所の説明もそれぞれつける。

興津のお土産にしてはいかが。店先にはサブレを焼く甘いにおいが漂っている。

18 果樹研究所 カンキツ研究部興津

明治35年(1902)、農事試験場園芸部として創設。その歴史は100年を超える。

ここでは、カンキツ類の遺伝資源の高度利用、付加価値の高い果実開発を目指すとともに、健康保持に有効な機能性成分の研究も行っている。最近健康ブームと言われるが、ここでは、温州みかんに多く含まれるβ-クリプトキサンチンの、がん予防効果について研究を進めている。静岡名産のみかんを食べて、がんを予防できるかもしれない。

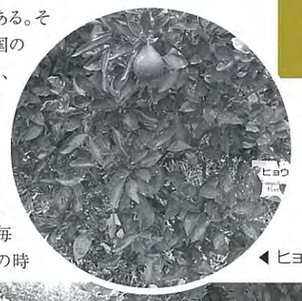
敷地内には、カンキツ類だけでも1500種ほど育っている。その他にもハゴロモノキ、ジャカランダ(世界三大花木)から、マカデミア、オリーブのような南方の植物まで様々な植物が植えてある。

中でも有名なのはプラタナス並木と薄寒桜だろう。ここのプラタナスは、明治35年、日本で初めて植えられたもの。イギリスのキュー植物園で交配された、木本植物では世界初の一代雑種である。それがここと新宿御苑に植えられ、その後、全国の街路樹に広まった。また、刈込み並木として、東大のイチョウ並木、北大のポプラ並木と並んで日本三大並木と呼ばれる。

もう一方の銘木、薄寒桜はワシントンのポトマック河畔に寄贈するための、病虫害に強い桜として生まれた。そのときの桜が現在1本だけ残っていて、2月頃の開花に合わせ、毎年研究所を一般公開している。それ以外の時期でも、予約すれば研究所内を見学できるそうだ。

季節ごとに様々な花が咲き、プラタナス並木の表情も違うとのこと。ただし、研究所内の植物を触らない、というマナーは守りたい。

▲ 落羽松(ラクウショウ)



◀ ヒョウカン

▲ プラタナス並木

19 おもちゃと模型博物館

興津 MUSEUM

創業昭和40年。最初は金魚すくいから始めた生粋のおもちゃ屋さんの一角が展示スペースになっている。趣味が高じて本業となったと言うご主人(館長)がコツコツ集めたビニール人形、ブリキの人形など、懐かしいおもちゃがズラリ。「どれも自分で仕入れたものだけに愛着がある」と、館長の長崎京次さん。

なかでも一番愛着があると言うのは、真ん中の展示ケースにある大きな軍艦。なんと、プラモデルかと思ったらこれは館長自ら木を切り出して作成したものだそうだ。よくよく聞いてみると、かつては木工関係のお仕事をされていたのだとか。「昔はプラモなんてなかったんだよ」と言う。なるほど。細部までこだわった作りで一見の価値あり。

子供の見学が来ると、手作りのコマで遊ばせてくれる。大人も子供も、TVゲームに夢中の昨今。たまには、こういう昔ながらのおもちゃの雰囲気にひたるのも良いのでは?

20 路地裏の路地裏②

杉山印刷から杉山紙業あたりの路地、この辺りの路地が、また、いいんだな…。

路地裏はあえてクネクネ迷ってみる。すると、ふいに古い洋館を見つける。戦災を免れた興津には古い建物が残っており、大正時代のものもある。そして、興津には猫が多い。路地を歩けば猫に当たり、少し広い路では、猫が3匹何やら井戸端会議。興津は猫まで和やかだ。

駅に向かうと、ショーウィンドーに「運付き子猫ちゃん」を発見!「ブティックエミ」のオーナー岡村恵美子さんが手作りしているフェルトのマスコットだ。運付きというだけに、お尻には、かわいいウンが付いている。そんなシャレも楽しいが、この子猫ちゃんを持った人に懸賞の1等が当たったというから、そのウンも侮れない。

路地を歩くと意外なものに行き当たる。それが路地裏散策の楽しさなんだなぁ…。

◀ 運付き子猫ちゃん

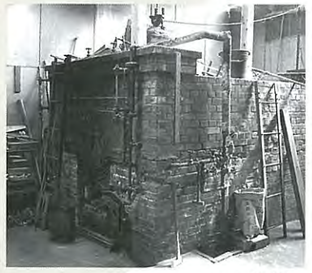
21 キッコーフジ醤油館

興津 MUSEUM

身延道に面した格子と屋号入のガラス戸が由緒正しき造り醤油屋を示している。

「伏見醤油合資会社」は、明治末に創業し、現在の建物は大正10年に建てられたもの。ガラス戸を入ると、帳場・欅の長押・大黒柱・鉄製金庫が、古い時代の重厚な趣と当時の賑わいを伝え、暮らしの中の歴史を肌で感じることができる。また、奥の工場では、煉瓦造のボイラーや大きな醤油桶、麹室なども見ることができる。

現在も、生醤油を取り寄せ、ブレンドし、うまみにこだわる自社製醤油を販売しているこの博物館には、小学生が見学に訪れ、醤油の原料や製法の説明を聞くこともあるそうだ。



▲ ボイラー

◀ 醤油桶

22 ずんどう焼本舗

興津 SWEETS

身延道沿いにある「堀池あんこや」が作る「ずんどう焼き」。

一見今川焼きのようだが、名前の由来は…？戦前、身延道が東海道にぶつかる場所に「ずんどう亭」と呼ばれる料亭があった。東海道に「ずどんとぶつかる」ことからそう呼ばれていたのだが、このお菓子にはその名前をいただいたそうだ。

「あんこのふるさと興津」の流れをくんだあんこ屋らしい小倉のほかに、クリーム、ツナ、キムチもある。

23 身延道（みのぶみち）

江戸時代東海道、中山道など「五街道」から直接分岐する、また、五街道の延長の道を「脇往還（わきおうかん）」と呼んだ。

現国道1号（旧東海道）を北に分かれて山梨県に至る身延道もその一つで、かつては身延山久遠寺への信仰の道であり、また、駿河からの魚介類、興津・由比の海岸や瀬戸内海で製された塩を甲斐へ、甲斐からは米などの穀類を運搬する重要な道でもあった。

身延道入口から身延山麓まで13里余。およそ55キロメートルといったところであろうか。明治13年の大火まで、身延道入口には「石塔寺（せきとうじ）」という法華題目堂があり、かつてのこの道への信仰が伺える。

現在、身延道の入口には、「身延山道」・「石塔寺」と刻まれた石碑とともに「髭題目（ひげだいもく）」と呼ばれる高さ3メートルほどの題目石が残っており、ヒゲがはねたような字で「南無妙法蓮華経」と刻まれている。

24 ナマドラ【ふなじうしほ屋】

興津 SWEETS

どら焼きに生クリーム。軽くて、2つ目に思わず手が出てしまいそうになる不思議な魅力を持った和洋折衷のお菓子。平成17年1月に20歳をむかえるナマドラが生まれた当初は“どら焼きにはあんこ”が当たり前。今でこそ変わり種を入れることはそうめずらしくないが、当時は画期的なことであった。誕生したきっかけは、いつも余る生クリームを何気なくどら焼きに入れてみたこと。口コミでどんどん広まり、今では興津を代表するスイーツであることは間違いない。

創業は大正5年と古く、和菓子が主のお菓子屋であったが、ケーキやシュークリームといった当時はまだ珍しい洋菓子も売っていた。創業から店は現在と同じ身延道沿いにあり、近くの馬車駅から道すがらお菓子を買い、興津駅に行って汽車に乗ったそうだ。

和菓子は種類が豊富で、生菓子は品揃えが良いので評判だ。「砂糖は使う程に日持ちはよくなるが、甘いだけで素材の味が消えてしまうので控えめにしています。和も洋も一番重要なのは素材の味。いつでも、何を作っていても素材を生かすための努力をしているだけです」と2代目ご主人。3代目ご主人も同じことをおっしゃった時は、世代のつながりと店の歴史を強く感じた。

実は、前出のN0.8宮様まんぢう【潮屋】の分店であることも興味深い。温かくて実直な人柄・店柄がお菓子に表れているのがこの店の一番の魅力。

D

25 興津商工会「恐怖のおばけ屋敷」

毎年7月31日は、宗像神社の例祭。街中がにぎわうこの日にあわせ、興津商工会でも夏祭りを開催している。

商工会事務所の前には、夜店やDJが華やかに並ぶが、事務所の2階は、なんと「恐怖のお化け屋敷」と化している…。

怖いもの見たさで中に入ってみると、不気味なBGMと冷気が流れ、笹のにおいが漂っている。黒い板で仕切られた迷路を手探りで歩き、生首や破れ提灯に遭遇、心なしか胸が高鳴り、背筋に寒いものを感じていると、突如、お化けに脅かされ、その後は、出口へ走って逃げたいほど怖くなってしまった。まさに「恐怖のお化け屋敷」、恐るべし…。

このお化け屋敷を企画運営しているのが、商工会青年部の皆さん。今年で9年目を迎え、その怖さ、リアルさから毎年1000人を動員するという超人気企画に仕立てている。青年部部長の伏見裕之さんによれば「仕事の後で集まって準備するのは、とても大変だが、お客さんを脅かすのが楽しくて、段々病みつきなる」そうだ。

あたりが暗くなり、例祭の花火が始まる頃には、お化け屋敷前に100人を超す長蛇の列ができた。毎年、迷路や仕掛けを変え、恐怖に磨きをかけているこのお化け屋敷を町中の人が楽しみ、年に1度の例祭を大いに盛り上げている。

26 ラ・ローザンヌ

興津 SWEETS

店内に、何種類ものケーキと焼き菓子が並んでいる。特にショーケースのケーキは、いろいろなフルーツ・チョコレート・クリームが使われ、その美しさに思わずうっとりしてしまう。

「お菓子は胃袋を満たすものではなく、心を充たすもの」。そんな修行時代の言葉を大切に、お菓子づくりに取り組んでいる石垣豊さんが店長の洋菓子専門店「ラ・ローザンヌ」。

おいしいお菓子をお客様に食べてもらうため、スタッフは毎日、材料のフルーツを味見し、その日仕入れたフルーツに合わせた加工をする。同じチョコレートケーキでも夏は軽く、冬は重くと、季節と人のコンディションも考える。

そのこだわりには、思わず「すごい」と思ってしまうが、石垣さんには自然なことらしく、「こだわりではありませんよ」と首をふる。お客様もリピーターが多く、県外の方もいるそうだ。

明るい店内には、喫茶コーナーもあり、飲み物とお菓子を注文することもできる。

27 宗像神社（むなかた）

興津商工会の向かいにこんもりと大きな森が見える。この森には「女躰森（にょたいのもり）」という何やらなまめかしい名前がつけられている。これは、森の形が女性を思わせるとも、森の中に鎮座する「宗像神社」の祭神がオキツヒメと呼ばれる女神であるからともいわれており、興津という地名は、この女神の名前に由来するともいわれている。

神社より北に八木間町とよばれる町があるが、八木間という名前には、大昔、宗像の女神が「八木」に乗って海を渡り、上陸した所を八木にちなんで、「八木間」としたという伝承がある。『八木とは、八と木を組み合わせると、「米」という字になる。江戸時代にも、ハチボクとは米の別名だったそうで「遥か海上から漂着した女神が米をもたらした」』と解釈すれば、古代へのロマンは広がる。

宗像神社の本社は、福岡県の宗像三女神だが、三女神の中でも、沖津宮は、古墳時代以来、航海する船の安全を守る神として厚い信仰を寄せられている。

興津の宗像神社の、境内にはひときわ高くそびえるクロマツがある。この木は、かつて、地元の漁師が、漁場を知るための目印としていた大事な木であったそうだ。

現在の宗像神社も、境内には木々が繁り、二の鳥居をくぐると、静かな別世界を感じさせる。毎年7月31日は、神社の例祭で、「茅の輪くぐり」のため、二の鳥居に大きな藁の輪が設えられる。夏病みしないように輪をくぐり、その輪から藁を抜き取って小さな輪を作り、玄関にかけておくと魔除けになるといわれている。

28 かっぱらぱ編集室

1.かっぱ＝KidsのK（ギリシャ語でKappa）
2.らっぷ＋あ＝rap（おしゃべり）＋Association（交流）

合わせて、子ども達のおしゃべり交流会。編集長は3人の男の子をお持ちの現役お母さん、川島多美子さん。興津県営団地の集会室で毎週1回の活動と月1回の1日児童館、かっぱらぱ新聞の発行等全てが子どもによる子どものための活動である。子どもの居場所、たまり場、遊び基地。かっぱらぱ編集室は誰でも参加でき、何をしてもいい。夕方午後5時に集まって45分間は自主勉強、おやつを食べて6時半まで自由時間。編集室が出発到着地点であれば、何をしてもどこに行ってもいい、というのが基本。

活動日には場を提供し1日1つだけネタを投げかける。集まる子どもは年齢も違えばグループも違うが、自然に一致団結し目標に向ってどんどん進んでゆく。かっぱらぱ活動を通して、子どもを育む地域の拠点づくりこそが川島さんが行っている活動である。そこで見ることのできる興津の子ども達はいきいきと元気いっぱい！瞳が輝いている。

かっぱらぱ編集室の活動

①かっぱらぱ編集室
毎週火曜日午後5時から6時半
興津県営団地集会室
1ヶ月500円＋諸経費

②かっぱらぱ新聞発行（不定期）

③1日児童館
毎月1回　午前10時から午後4時半
興津県営団地集会室

④祭り盛りあげ隊
中学生以上　宗像神社の祭りをはじめ、興津9地区の町内祭りを訪れ、参加して盛りあげる。

⑤ちょっくらやらざぁ～講座
大人のための自己啓発講座の開講

29 駿河雛人形博物館

興津 MUSEUM

「駿河雛人形博物館」は創業100年余、駿河雛伝統工芸士である館長（ご主人）とその息子さんが人形のことについて色々教えてくれる博物館。昔ながらの人形の胴体を作っているほか、最近はつるし雛も作っている。

7月から10月までは主に製作、10月から5月までのシーズンは販売展示をしているので、時期をずらしてそれぞれに行ってみよう。

静岡の雛人形と言えば全国でも有名で、生産の大半は静岡産。「駿河雛人形」として、国の伝統工芸品にも指定されている。雛人形は静岡の指物・漆器・蒔絵などの伝統技術を結集して作られていると言っても過言ではない！

～興津の景色に憧れて～

▲ 興津不動尊より見える現在の海景

興津の町は海とともにあったと言っても過言ではない。万葉集にも「きよみのさき」と詠われた興津は、古くから景勝の地として発展してきた。それはひとえに、遠くに三保の松原、典型的な潟である清見潟、海ごしに望む富士山などの景色が大変素晴らしかったからにほかならない。

江戸時代、東海道17番目の宿場となった興津宿は、古くから「親知らず、子知らず」と言われた難所、薩埵峠越えを次に控えていた（あるいは越えてきたばかり）ということもあり、参勤交代や参詣客の逗留で非常に賑わった。また、古くから景勝の地ゆえ歌枕にされていたこともあって、旅が庶民にも手が届くようになった江戸時代以降、文人、画人などを始めとする多くの文化人が訪れ、それらの口伝や作品がより一層興津の景観を各所に広めていった。

また、鎖国時代の唯一の外交事業と言っても良い朝鮮通信使も、何度も興津に立ち寄り、休息または宿泊し、その風光に感嘆して詩などを残している。朝鮮通信使と言えば、当時にしてみれば宇宙人の来訪のようなものだから、国内あげての一大イベントである。その旅程や行動、足跡などが当時の人に与えた影響はいかばかりであっただろうか。

1862年、それまで東海道の各宿場町に大きな利益をもたらしていた参勤交代制が大幅に緩和され、幕末をもって事実上崩壊する至り、他の宿場同様それに大きな恩恵を受けていた興津の町も不遇の時代を余儀なくされる。

しかし明治22年、東海道線が静岡まで開通し興津駅が完成したその年に、その後の興津の性格を決定付ける大事件が起こる。

なんと時の皇太子殿下（後の大正天皇）が清見寺に宿泊し、興津の海岸で海水浴をされたのである。当時、海水浴を楽しむと言う習慣は新しく、非常にモダンなことであったため、これは人々に大きなインパクトを与えた。今もこの事を記念し、清見寺の前に碑が立っている。ちなみに皇太子殿下は次の年も同様に海水浴に来たというから、いかに興津が気に入られたかがわかる。

この事件と、大政奉還の立役者の一人である後藤象二郎が一碧楼水口屋を常宿としたという事もあり、井上馨や伊藤博邦、西園寺公望など当時の名士がこぞって興津へ来訪、次々と別荘を建てた。はたして興津は、ハイクラスの別荘地として生まれ変わったのである。もちろん、かねてから興津の景観が文学や絵画などに取り上げられ、「憧れの地」としてよく知られていたことが、別荘建築の大きな誘因となったことは想像に難くない。

さて、鉄道の開通に伴ってまもなく一般の庶民も海水浴に訪れるようになった。年々海水浴客は増加し、ついに大正15年には隣の袖師に夏の期間のみ停車する「臨時駅」が作られるほど、興津周辺の海は賑わいを見せた。

太古の昔より悠然とそびえる自然の芸術に囲まれつつ海水浴と言うのは、現代を生きる我々からすればうらやましい限りである。夏になると毎日のように海へ遊びに行っていた、と当時を知る人は口を揃えて言う。

昭和30年代頃から始まる清水港国際港化に伴う埠頭建設・国道1号線バイパス建設等のため、清見潟を始めとする興津臨海は徐々に埋め立てられはじめる。国鉄袖師臨時駅も昭和39年に廃止、それと前後して袖師海水浴場も廃止となる。興津の海岸は清見潟公園となった。

▲ 朝鮮通信使・筆（清見寺）

興津は、港を脇に備え国道バイパス、JR東海道線、新幹線などが並び走る日本交通網の大動脈となり得たが、かつての海岸を忍ぶ物はほとんど無くなってしまった。

明治以降、要人の別荘がたくさん建てられた興津だが、復元された坐漁荘はともかく、当時の遺構はほとんど失われている。しかし、旧福山藩主・阿部正桓邸が著しく荒廃しているものの、現存していると聞き、調査に行ってみることにした。

教えられたとおりに進むと、農道と呼ぶことも出来ないほどの山道で、蜘蛛の巣と藪を分け入り進む状態であった。当然看板などはない。小一時間ほど迷いながら進み、ようやく見つけた阿部邸は遺跡というか、廃墟であった。一人で行くと、相当怖い。

今は木々や草が伸び放題で、広々と眺めを楽しむことは出来ないものの、当時の眺望は素晴らしかったに違いない。木々の間からかすかに見える海景は、やはり時代を越えて人の心を打つものであった。

残念ながら興津から見える海は姿を変えてしまったが、自然の美しさに感動する人の心は変わらないと思いたいものである。

▲ 旧阿部正桓邸

◀ 皇太子殿下御海水浴跡の碑

◀ 現在の興津の海

「ストリート で あい」をテーマに、様々な出会いがあるイベント、
ストリートフェスティバル・イン・シズオカも今年で5回目。
今年は昨年大好評だった「ウィンドウディスプレイアート」に加え、
グラフティーアートをバックにしての演劇やダンスなどのパフォーマンスも新登場!
もちろん、多彩なジャンルのアートが出展する「アートステージ」、
個性的なミュージシャンによる「ミュージックステージ」もあります。
今年は計120組を越える才能が、青葉シンボルロードに大集合!

11月20日(土) 13:00〜19:00
11月21日(日) 11:00〜18:00
雨天決行
青葉シンボルロード 他

http://www.streetfestival-shizuoka.com

アートとミュージックのコラボレーションイベント
(財)静岡市文化振興財団内　ストリートフェスティバル実行委員会
TEL:054-255-4746　FAX:054-653-3501　Mail: info@streetfestival-shizuoka.com

From Editor 編集後記

◆歴史や美しい風景が随所にある街。そして、それを見せびらかさない奥ゆかしい街。

◆電車に乗って、興津の山が見えてくるとホッとする。和みの街であるとともに、ハイカラな歴史にもびっくり。

◆皆様がお持ちの情報をもとに取材したいと思います。ご意見・ご感想・情報をドシドシお寄せください。

参・考・文・献

●『東海道薩埵峠 —東と西の出会う道—』(社)中部建設協会発行
●『巨鼇山　清見寺』清見寺発行
●『西園寺公望 —最後の元老—』岩井忠熊著
●『静岡県　史話と伝説　中部篇』郷土研究叢書　松尾書店

■写真・資料提供
佐野明生氏
田中明氏
望月弘美氏
興津商工会
山田写真館
ふなじうしほ屋
静岡市立清水興津公民館

静岡文化情報「街かど」第24号

●発行(年2回)
平成16年10月
●編集・発行
(財)静岡市文化振興財団
〒420-0031
静岡市呉服町二丁目1-1 札の辻ビル6階
TEL.054-255-4746/FAX.054-653-3501
E-mail:bunshin@chabashira.co.jp
http://www.chabashira.co.jp/~bunshin/

●印刷
株式会社パピア中央
静岡市小鹿一丁目62番18号

PWC SCHOOL

BOAT SCHOOL

RIDING SCHOOL

スルガは
モータースポーツを
応援します。

全日本選手権参戦のTEAM RABBIT。長男真成さんは国際A級。次男幸仁さんも国際B級で健闘中。国内メーカーのプロチームを相手にプライベートチームとして戦っています。

DRIVING SCHOOL

Choose what you want to get.
Every license will take you to
the new world,exactly.

2004年よりＪＡＦ地方選手権Ｆ４に昇格した松下昌揮さん。数々の最年少記録をつくり、地元清水注目のレーサーとして活躍中。

スルガ ドライビングスクール
普通自動車・大型特殊自動車免許・高齢者講習・安全運転企業セミナー
スルガ ライディングスクール
大型自動二輪・普通自動二輪・小型自動二輪免許
スルガ マリンサービス
1・2級小型船舶操縦士免許・特殊小型船舶免許

http://www.sulga.co.jp
SULGA Friendship School
スルガ自動車学校

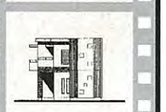
エアーハウス(株)が
２階建、３階建の住宅部門へ本格進出 !!

日本古来の
「大屋根の家」
にPCS工法（壁免震工法）の技術を投入
地震対策とハイクオリティ融合を実現!!

PCS工法（壁免震工法）
地震・火災・遮音性・保温性に大変優れております
住宅は短くても１００年の耐久力が欲しい!!
・標準仕様価格は４５万／坪からです。
・在来・木造軸組工法も承っております。

重量鉄骨耐火構造3階建 PCS工法
世界7カ国で特許取得。壁免震工法
日本 | アメリカ | EU5カ国
ドイツ フランス イギリス イタリア スペイン

NEW感性
「キューブ・フォルム」
シンプルをテーマに天然石イタリアンタイル等でアレンジ!!
斬新な欧風調デザインとしました



総合建設
エアーハウス株式会社
AIRGROUP
(0120) 69-6623　(0543) 69-6622
〒424-0204
静岡県静岡市清水興津中町725-42
ホームページ：http://www.airhouse.co.jp
e-mailアドレス：info@airhouse.co.jp
設計企画室

クア・アンド・ホテル駿河 駿河健康ランド

ビジネス・観光に、お泊まりでゆったりとお風呂を楽しんでください。

いやしサウナ、塩サウナ他

イオン発生機から発生されるマイナスイオンと
ブラックライトの効果により滝のほとりの
爽やかな空間を造りだしております。
その他各種サウナ有り

20のお風呂とバーデゾーン

水着着用ゾーン。水着の
レンタルもいたしております。

宿泊施設

シングル、ダブル、ツイン、和室
お一人様でもご家族でも
幅広くご利用いただけます。

エステ、アカスリ、ボディーケア

2階フロアーは充実のいやし空間

その他施設

飲食店9店舗、ダンスホール
フィットネスクラブ、託児施設
美容室、カラオケルーム、仮眠室

〒424-0203 静岡県静岡市清水興津東町1234
TEL.0543-69-6111 FAX.0543-60-0111

※JR清水駅方面・富士方面シャトルバス送迎有

年中無休・24時間営業　P 無料大駐車場完備　http://www.kur-hotel.co.jp　忘・新年会受付中

割烹 佐乃春

西園寺公望公 復元料理

最後の元老
西園寺公望公が愛した
佐乃春の料理が、
今、鮮やかに蘇る

10,500円(税込)より
要予約(三日前まで)

※お料理は季節によって変わります。
(上記写真はコースの一例です。)

当日予約コースあります
お値段等、お気軽におたずね下さい。

割烹 佐乃春

静岡キャッスルホテル佐乃春2F

静岡市両替町1-4-8(静岡伊勢丹裏)
tel.054-253-0177／fax.054-253-0234
http://www.sanoharu.com

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています。